



只見町ブナセンター だより

<ごあいさつ>

全国的に経済活動が再開されつつある一方で、新型コロナウイルスの新規感染はおさまりを見せず、予断を許さない状況が続いております。ブナセンターにおいても入館時のアルコール消毒や入館確認カードへのご記入のお願いなど、感染症対策を継続しております。詳細につきましては、ブナセンターホームページでお知らせしておりますので、ご確認ください。ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

===== 開 催 案 内 =====

【企画展（改訂版）】

只見の野生動物とその生態

只見町には、豪雪の影響を強く受けた^{せつじよく}雪食地形やブナ林をはじめとした様々な森林群集からなるモザイク植生が発達し、多様で複雑な自然環境が形成されています。また、奥山には原生に近い状態で広大な自然林が残されていることから、多くの野生動物が生息しています。

野生動物のうち、^{ほにゅうるい}哺乳類は只見町で37種が確認されています。しかし、これらの多くは夜行性あるいは森林性であるため、私たちが直接目にする機会は多くはなく、その生態についてもあまり知られていません。近年では、日本各地において哺乳類による農林業被害や人身被害が発生しており、大きな社会問題となっています。只見町のような山間地域では、野生動物と隣合わせで生活していかなければならず、その生態について知ることが重要です。

本企画展は、過去に只見町ブナセンターが開催した企画展「只見の自然に生きる！ 只見の野生動物とその生態」にその後の新たな情報、写真等を加えて内容一部改訂して開催します。只見町で確認されている哺乳類各種の生態をセンサーカメラが捕えた写真、町民から寄贈された剥製などをまじえて紹介します。さらに、人間と野生動物の関係としての^{しゅりよう}狩猟、分布を拡大している大型哺乳類や外来生物の問題についても解説します。

■会 期：2020年10月10日（土）～12月14日（月）

■場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー



=====**行事案内**=====

【自然観察会】

余名沢の多様な森を歩く！

只見町にはこれまで伐採されたことのない自然林、かつて薪炭利用されていた広葉樹二次林、薪炭林跡地や萱場に植林されたスギ人工林など、様々な条件で成立した森林が存在しています。余名沢付近の森はスギ人工林、コナラ・アカマツ林、林齢の異なるブナ二次林を観察することができます。本観察会ではこれら多様な森林が成立した由来とそこに生息する動植物を観察するとともに、それらの生態について学びます。

開催日時：2020年10月31日（日） 9時30分～12時00分

集合場所：季の郷湯ら里 駐車場（9時30分）

観察場所：余名沢周辺の森

※荒天時は中止あるいは時間を短縮することがあります

持ち物：飲み物、雨具、長靴、マスク

参加費：高校生以上500円、小中学生400円（入館料、保険料込み）

町内在住の小・中学生・高校生は200円（保険料込み）

定員：15名（事前予約制）

お申し込み・お問い合わせは只見町ブナセンターまで ☎ 0241-72-8355

=====**活動報告**=====

【自然観察会】 7月25日（土）

只見町ブナセンター自然観察会 「癒しの森のブナ林を歩く！」

布沢の「癒しの森」で自然観察会が開催され、12名の方々にご参加いただきました。只見町と金山町の境界にある癒しの森を歩きながら、そこで見られる林相の特徴を知っていただくとともに、その道すがら夏ならではの生き物の観察をお楽しみいただきました。当日は小雨の空模様でしたが、茂った木々のお陰で森の中は



▲森を歩く参加者ら

傘要らずでした。

癒しの森の核心部は、ブナやミズナラなどから成る原生林のような森を気軽に観察できるのが魅力です。薪炭林としての伐採履歴の違いによって、サイズの小さなブナが高密度で占有した林や、ブナからミズナラへと主体が切り替わった林、伐採後にカラマツやスギが植栽された林など様々な林相について、ブナセンター職員が解説しました。



▲ブナが優占する二次林

林内では、耐陰性の高いブナが優占しつつある一方で、明るい林を好むミズナラは、ブナに押されて衰退の途上にあります。このため、比較的遷移の進んだ二次林であると言えます。また、倒木によって開けた場所では、先駆性の各種草本・木本が競うように生育することで、一時的に多様な植物相を形成しています。

樹木の他にも、タマゴタケやアカヤマドリなどのキノコや、ブナ帯を代表するコブヤハズカミキリなどの昆虫、イカルなどの鳥類が観察できました。小雨で湿潤だったためか、キセルガイ類やヤマナメクジといった貝類もよく見られました。お昼には、森で採れたオオバク口モジを沸かしたお茶が振る舞われ、酸味のある味わいや爽やかな香りを楽しみました。



▲タマゴタケ

参加者は癒しの森の林相にみられる特徴や、夏に見られる生物について理解を深めました。

【講座】《動画配信》

只見の養蚕の歴史と民俗

本講座は、企画展「只見の養蚕」に関連して行い、みちのく民俗文化研究所代表の岩崎真幸氏を講師にお招きし、只見の養蚕にまつわる歴史や民俗について解説いただきました。なお、新型コロナウイルス感染防止のため、動画配信により開催しました。



▲岩崎真幸氏

初めに、岩崎氏は只見地方の養蚕業の歴史について解説しました。只見地方では、江戸時代の末期にはすでに養蚕が盛んに行われていました。明治時代になると国策として養蚕業の振興が

図られたため、只見の養蚕家は養蚕技術を向上させるために、養蚕の本場である伊達地方などに赴き研修を受けました。岩崎氏は、只見の養蚕業を発展させた要因として、只見原産の優良蚕種（カイコの卵）である「^{ただみさん}只見蚕」、只見地方にいくつもの製糸工場を設立した「^{なんこうしゃ}南光社」、そして雪に強い早生種である「^{じゅうじまくわ}十島桑」の貢献が大きかったことを指摘しました。

次に、岩崎氏はカイコの飼育法について説明しました。只見では春から晩秋にかけてカイコが育てられました。卵から孵化したばかりのカイコは「^{けご}毛蚕」と呼ばれ、細かく刻んだ桑の葉を与えて育てます。カイコは桑を食べながら脱皮を繰り返して大きくなり、やがては上^{じょうぞく}簇して繭を作ります。成虫となったカイコが繭から出る前に、繭を乾燥させて中の^{さなぎ}蛹を殺してしまうと、繭のゴミやちりを取って整えます。繭のまま出荷する場合もあれば、繭から糸取りを行い、生糸に仕立てて出荷する場合もありました。

こうした養蚕業は天候やカイコのウイルスなどによって左右されるため、養蚕家は神仏への祈願をたびたび行っているとされます。また、カイコを育てながらも、人間の都合により殺めてしまうことに対して、「虫送り」や「虫供養」といった儀礼も行われました。岩崎氏は、只見の養蚕について調べた際に、こだわりをもって取り組んでいる方が多いという印象を受けたとお話しされました。

この動画はブナセンターHP や Facebook などにて配信中です。ぜひご覧ください。

【自然観察会】 9月20日（日）

只見の養蚕跡地を訪ねよう！

本観察会では、只見の養蚕業における十島桑栽培の中心地であった十島集落を訪れ、史跡などを巡りながら、十島に暮らしていた人々の生活や只見の養蚕の歴史について指導員が解説しました。

まずは只見川にかかり、十島集落と他地域を繋ぐ十島橋について、古写真を見せながら説明しました。1961年に竣工した滝ダムの建設途中において、工事の影響を受け一時的に只見川が増水した際、当時は吊り橋であった十島橋が川の水面に沈んでしまいました。当時の十島集落の住民は、橋の代わりに小舟を用いて川を渡り、塩沢にあった学校などに通ったとされます。



▲写真を見せつつ解説する指導員

次に、庚申講の石碑、鬼渡神社そして若林家の屋敷神の石祠と観音堂を訪れつつ、かつての十島集落における人々の生活やそれに滝ダム建設が与えた影響、只見の養蚕業の概要や十島集落の養蚕の歴史、十島桑の普及過程、信仰などについて解説しました。

只見町は冷涼で蚕の飼育に向く気候条件を備えている一方で、豪雪地帯でもあり、餌となる桑の芽吹きが遅いという難点も抱えていました。そのような只見地域での養蚕を支えていたのが十島桑の存在です。十島桑は強い耐寒性、耐雪性を備えた早生樹でした。そのため、春蚕におけるカイコの孵化にあわせて餌の供給源となることができました。



▲現存する十島桑

観察会の途中で十島の住民の方に十島桑が現存している場所を案内していただきました。また、かつて実際に十島の養蚕で使用した道具を見せていただきながら、それぞれの使い方なども説明していただきました。この方は、滝ダムの建設によって、十島の桑園が縮小したため、多くの集落の人々が養蚕をやめることを余儀なくされたことについてもお話しされました。



▲十島の養蚕で使用された道具

参加者は十島集落の養蚕跡地を観察しながら、養蚕経験者の生の語りを聞くことで、只見の伝統産業である養蚕について学びました。さらに、ダム開発が集落の生業や生活のあり方そのものに対して、どのような影響を与えたのかについても、理解を深めました。

===== お 知 ら せ =====

【動画紹介】

<ネット企画展>・<只見町ブナセンター講座>

ただみ・ブナと川のミュージアムで開催中の企画展をトピックでシリーズ紹介。現在は開催中の企画展「只見の養蚕」を紹介する動画を配信しています。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本企画展の関連講座「只見の養蚕の歴史と民俗」は動画配信にて開催しています。



一只見の養蚕—
予報



一只見の養蚕—
第1回 カイコの飼育法



一只見町ブナセンター講座—
只見の養蚕の歴史と民俗

<ネットブナセンター>・<只見町ブナセンター施設紹介>

「ネットブナセンター」では、只見町の自然に関するトピックをご紹介します。新たに「只見町の生きもの」を公開。モリアオガエルとアカハライモリを紹介しています。「只見町ブナセンター施設紹介」では「動物編」を公開中。ただみ・ブナと川のミュージアムで展示している剥製や昆虫標本などを紹介しています。



一只見町の生きもの—
第1回 モリアオガエル



一只見町の生きもの—
第2回 アカハライモリ



—ブナセンター施設紹介—
ただみ・ブナと川のミュージアム：
動物編



<編集後記> 秋も深まってまいりました。半袖は辛くなってきたこの季節、真昼の道路上では、暖をとりに草地から出てきたカマキリやバッタを見る機会が多くなります。弱弱しく覇気のない姿を見ると心配になりますが、彼女らを拾い上げてお尻を見ると、大抵は卵囊のカスがついており、一度は産卵を済ませている事がわかります。こうした冬支度を済ませた生き物たちの姿が季節の移り変わりを感じさせてくれます。皆さんも冬着や暖房器具の準備はお済みでしょうか。さて、ブナセンターでは企画展や観察会を予定しております。スタッフ一同、コロナ対策に万全を期して皆様のお越しをお待ちしております。(吉岡)

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地



電話 0241(72)8355

ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356

電子メール info-buna@amail.plala.or.jp

Facebook <https://www.facebook.com/tadami.buna>

附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」、「ふるさと館田子倉」

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）

入館料：高校生以上 310円 小・中学生 210円 未就学児無料（20人以上は団体割引）